



VOICE 気さくな先生方とプライマリーケアを学ぶ

野々山 航士（4年、愛知県）

初めて実習に行く人や家庭医療に興味ある学生がピッタリかと思います！ 深浦唯一の診療所ですので、プライマリーケアを実践する医師の姿を学べます。先生方はみなさん親しみやすい方々です。また、院長の吉岡先生は医務官のご経験があり、平野先生はまちづくりに尽力されているなど、医師の幅広いキャリアについても伺える機会になると思います。

どうしてその実習先を選んだのか？

深浦という町が好きだった

深浦という町が好きだったのが第一にあります。深浦出身の友人と釣りに行ったときに感じた町の雰囲気、とても自分に合っていて気に入っていました。また、深浦診療所の平野先生に会いたかったからです。ココキャンの活動をする中で、病院の外で地域でのつながりを生むまちづくりコミュニティ作りに取り組みされている平野先生と出会いました。総合診療医を目指す私にとっての、一つのロールモデルである先生のもとで地域医療実習をしてみたい思いから、深浦診療所を選びました。

実習先の良かったところは？

外来を先生目線で見学し、学習できた

外来を先生の視点から見学し、学習できたのがとても良かったです。先生の診察を見ながら、患者さんの主訴や相談について自分でメモを取り整理する練習ができました。特に、問診や診察から想定される病態を、自分の考えを述べつつ、先生からもフィードバックしてもらえた経験が、とても有意義で嬉しかったです。

実習の流れ

深浦診療所の実習スケジュール

総合診療科研修

3日間 同じスケジュールで実習しました！



午前

外来見学・診察の練習

- ◆ 外来見学
- ◆ 先生を患者に見立てた診察練習
- ◆ 先生から診察のレクチャー
- ◆ カンファレンス

午後

特別養護老人ホームへ訪問診療

- ◆ 問診の体験
- ◆ 患者さんとお茶



診療所で働く医師の日常はドラマのような劇的なものではなく穏やかに流れていました。経済的、学問的な大成功よりも、もっと人と直接関わることで感じるやりがいを大切にしたい仕事だと思いました。

カンファレンス（その日の患者さんの振り返り）を行う様子です。逐一質問する機会をいただきました。

継続して回診することで、地域の特養に深く関わりを持てるのが良いと感じました。先生と患者の信頼も時間をかけて作られていました。一方、患者は積極的な治療より、病気とうまく付き合っていく面が強く、総合病院の診療と比べて医学知識的なやりがい作りづらいことも実感しました。

Q & A

実習参加者の声

Q1. どのような医師になりたいですか？

総合診療医になりたいです。患者一人ひとりと同じように地域全体を診ることができる医師を目指しています。

Q2. 最初に立てた目標は？

問診中の先生の考え方を知ることが目標でした。先生の間診を見学して患者の訴えをメモしながら、自分なりの回答を作って先生にアドバイスをもらうことを取り組んでみました。

Q3. 深浦診療所までのアクセスは？

自家用車で1時間半かけて行きました。五能線に乗って深浦診療所に行くことも可能だと思います。

Q4. 実習に向けて準備したことは？

CBTの勉強をしていました。特に実習に向けた予習はしていません。先生方にお願ひすれば、できるだけ希望にそって診察や問診の体験、練習をさせてもらえます。なので、やりたいことを事前に整理できるとよりよい実習になると思いました。また、座学の理解だけでなく、聴診の流れや問診で聞く基本事項（OPQRSTみたいな）について覚え直しておくのと良かったなと感じました。

Q5. 宿泊場所はどんなところですか？

深浦観光ホテルに泊らせていただきました。気持ちよく温泉に入れる素晴らしいお宿でした。ホテルだったので、着替えさえ持っていれば、なにも困りませんでした。

Q6. 食事はどうしましたか？

朝食と夕食は、ホテルでの食事でした。和食の小鉢がたくさんある、旅館のお食事という感じで美味しかったです。昼食は病院の出前（500円程度）かスーパーで購入でした。

Q7. 食費はどれくらいかかりましたか？

1日あたり500円ほどでした。

Q8. 持ち物は？

ケーシーと白い靴を持参しました。白ければ靴はなんでも大丈夫でした。メモを取りたかったので、ポケットに入るメモ帳とペンは常に持ち歩きました。

Q9. 衣類以外の持ち物は？

またアメニティ用品（洗顔、歯ブラシなど）は持っていきました。シャンプーなど風呂用具は備えつけられていました。一般的なホテルでしたので、特に物品の不足には困ることはないです。

